

2008年(平成20年)10月22日 水曜日

# マザーコスモ、台湾進出

## バイオ燃料プラント販売

【岐阜】マザーコスモ（滋賀県湖南市、山中敏男社長、07488・721525）は、バイオエタノール製造プラント事業で台湾に進出する。30日に現地の樹脂原料メーカーの泰豊塑実業（台北市）と合弁会社を設立し、同プラントの販売に乗り出す。1基の生産能力が1日当たり10ト以上の大規模プラントで、価格は数十億円になる見込み。すでに現地の大手企業から引き合いがあり、早期の受注獲得を目指す。

### 現地企業と合弁

新会社は「台湾可速出資する。総経理にはマム」。台中市に本社を置く。資本金は800万台湾元（約2400万円）で、マザーコスモが49%、泰豊塑実業が51%を

委託する。同プラントは、マザーコスモの業務提携先のコンティグ・アイ（岐阜市）が開発したバイオエタノール製造技術を応用したもの。特殊な酵素を使い、芝など非食料の植物から高効率でエタノールを製造でき

る。例えば1トの芝から200キロ〜250キロのエタノールが製造できる。マザーコスモは、すでに海外事業部で台湾の大

手の肥料製造会社や電力会社などと交渉を進めている。うち1社が台湾南部に3000畝の用地を確保し、エタノールの原料に使う狼尾草（和名アブラススキ）という草の栽培に着手している。「台湾ではバイオエタノールの普及や製造技術の開発が遅れている」（中村修マザーコスモ常務）ことから、新会社では積極的な受注活動を展開する。